

第2回  
グリーン物流パートナーシップ会議

CO<sub>2</sub>排出量算定ワーキンググループ

- 1) 活動内容
- 2) CO<sub>2</sub>排出量算定共同ガイドライン
- 3) 共同ガイドライン簡易版について
- 4) 改正省エネ法について
- 5) 今後の予定

# 1. CO<sub>2</sub>排出量算定WGメンバー

(座長) 増井 忠幸 (武蔵工業大学 教授)

荒木 恒美 (日本通運(株) 環境部長)

飯島 康司 (三菱電機(株) ロジスティクス部 企画グループ専任)

飯田 慎一 (松下電器産業(株) 環境本部 環境渉外チーム 主事)

伊藤 一道 ((株)三菱総合研究所 地球環境研究本部 サステナビリティ研究部環境政策・経営研究チーム チームリーダー)

垣迫 裕俊 (北九州市 環境局長)

鎌田 康 (日本貨物鉄道(株) 経営企画部 担当部長)

別所 恭一 (佐川急便(株) 執行役員 CSR推進本部環境推進部長)

高松 孝行 (トヨタ自動車(株) 物流企画部 主査)

辻 泰弘 (日立物流(株) 環境部 担当部長)

納富 信 (早稲田大学 環境総合研究センター 助教授)

野村 久則 ((株)菱食 ロジスティクス本部 ロジスティクス統括部ロジスティクス・コントロールチーム 主事)

山口 匡 ((株)トーマツ審査評価機構 CDM審査部)

## 2. CO2排出量算定ワーキンググループの

### 設置趣旨・活動内容

#### 【設置趣旨】

CO<sub>2</sub>排出削減効果の定量的な把握に資する**標準的な指標及び算定方法**についての**技術的及び実務的見地**からの検討を行う。

グリーン物流パートナーシップ会議 会員規約第3条(2)

#### 【活動内容】

共同ガイドラインの**精緻化**

(「共同ガイドライン」の概要は次ページにて説明)

より**簡易で実務的**な算定マニュアルの作成

CO<sub>2</sub>算定手法への利用者**意見の反映**

(改正省エネ法へのフィードバック)

### 3. 共同ガイドライン Ver1.0 概要

正式名称：「ロジスティクス分野におけるCO<sub>2</sub>排出量算定方法  
共同ガイドライン Ver1.0」

#### (経緯)

- ・**経済産業省**：平成15年度環境調和型ロジスティクス調査(LEMS)で策定した環境負荷量の定量化手法
- ・**国土交通省**：独自に物流事業者向けに作成した算定基準を元に、内容を統合化、不足部分を新たに検討し、平成17年3月に共同ガイドラインとして纏めたもの。

#### (内容)

- ・現状考え得る各種算定方式(**燃料法、燃費法、従来トンキロ法、改良トンキロ法、地域間マトリックス法、料金法**の6パターン)を盛り込んでいる。(原単位等、未整備のものも含んでいる)
- ・現時点での物流分野におけるCO<sub>2</sub>排出量の**標準的算定手法**を示すものと位置付け。
- ・算定手法だけでなく、環境負荷低減のための**取組方法**についても指針を示すものとして今後内容の更新を行っていく予定。

## 4. 第1回CO2排出量算定WG議事概要(1)

### 第1回CO2排出量算定WG

…6月10日(金)に開催。

算定方法の精度、算定方法や共同ガイドラインの簡易化、普及方法等について各委員の意見を交換。(主な論点は以下)

- ・大企業から中小企業まで幅広い事業者が1社でも多く利用し、CO<sub>2</sub>排出量の把握が容易にできるようにすることが重要。

**精度と普及(パンフレット・セミナー・簡易計算ソフト)**

- ・共同ガイドラインの利用者拡充に向けた方策とより使い易い簡易版の作成が必要。

**簡易版の作成**

- ・共同ガイドラインの内容検討を継続して行うべき。

**記入要領・データ取得方法・簡易計算用フォーマット**

- ・改正省エネ法で議論されている荷主基準と共同ガイドラインとの関係の整理が必要。

**働きかけ**

- ・按分方法や算定方法など技術的な課題の解決に向けた検討を行うべきではないか。

**按分法の検討**

- ・実証実験に合わせた原単位の精緻化や外部係数の整備の必要ではないか。

**データ収集と整備・維持管理**

## 5. 第1回CO2排出量算定WG議事概要(2)

### 第1回CO2排出量算定WG

・6月10日(金)に開催。

現行の「共同ガイドライン(Ver1.0)」の内容精査

原単位の精緻化 係数の整備 荷主間の按分方法

簡易化

人材不足の中小企業でも使えるものに簡易マニュアルを

省エネ改正法との関係整理



次回:・簡易版の提示

・省エネ法との関係整理

## 6. 第2回CO<sub>2</sub>排出量算定WG議事概要(1)

### 第2回CO<sub>2</sub>排出量算定WG

・7月15日(金)に開催。

第1回WG後に寄せられた各委員の意見も合わせ、第1回WGでの論点について議論を重ねるとともに、共同ガイドラインの簡易版(案)を事務局より委員に提示し、これに対する議論を行った。(主な論点は以下)

#### 精緻化・簡易化の問題点

**データ把握の困難性**: 積載率の把握方法 重量と容積

**算定方法**: 荷主と物流事業者は同じ方法でなければならないか?

下請け・孫請けの場合の処理方法

**算定方法による結果の乖離**: 原単位の精緻化とも絡む

意見

- ・コンテナ容量を重量に換算する係数を作っては?
- ・積載率のデフォルト値を設定しては?
- ・ガイドラインを主体別に分けて作っては?
- ・結果の乖離は、原単位を細分化することとともに継続性があればよいことには?

## 7. 第2回CO<sub>2</sub>排出量算定WG議事概要(2)

### 第2回CO<sub>2</sub>排出量算定WG

・7月15日(金)に開催。

#### まとめ

- ・簡易版を作るのはよいが、**データの入手における課題の解決策が必要。**
- ・共同ガイドラインの構成は、**主体別(荷主・物流事業者別)**になっている方が使用しやすい。
- ・トンキロ法などで用いる実重量の把握方法について、コンテナ等の**容量表示を実重量に換算**するような手法も検討すべき。
- ・算定方式間での算定結果の乖離については、**乖離幅を少なくする努力**は必要。
- ・ただ、算定方式間の乖離よりも、使用する算定方法の**継続性が重要。**

## 8. 簡易版ガイドライン(案)の概要

簡易版のイメージについては別添資料をご参照

「荷主編」と「物流事業者編」の2つの主体別に分冊。

・算定式は同じ ・荷主への報告方法記載

各算定手法ごとに、**適用対象**(ex. 精度を重視する場合、積載率の向上等の効率を評価したい場合、等)を明示。

「物流事業者編」では、さらに「荷主に報告する場合」と「自らの事業活動(実輸送)に伴う排出量を把握する場合」に分けて記載。

算定に必要な**データ**、**燃料使用量の把握方法**を記載。

燃料使用量については、**貸切便**の場合、**共同配送・混載**の場合はどのようなデータを採用するか、荷主毎の按分方法等についても、場合分けの上、列挙。

**荷主毎の按分**については、荷主別輸送トンキロを標準的手法と明記し、輸送トンキロによる按分例、輸送トンキロの把握方法について記載。



上記の ~ について、各事業者が自らに当てはまるケースを選択していけば、適切な算定方式・データ入手方法が簡単に分かる構成となっている。



御願

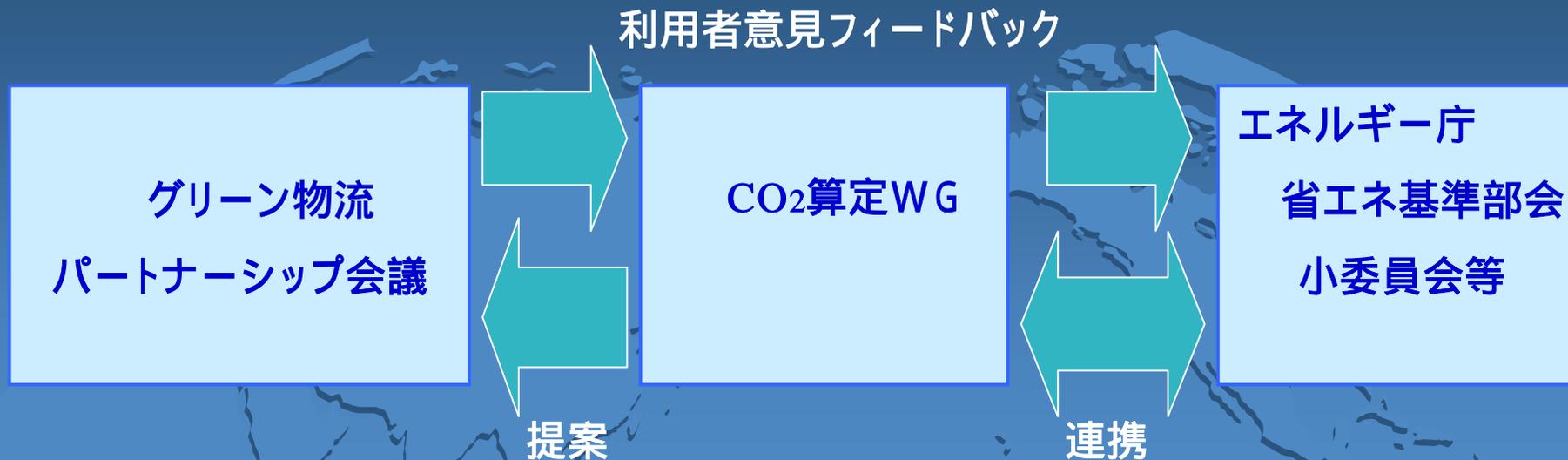
簡易版確定に向けて

・省エネ改正法との関係に配慮しつつ早急に作成



ご意見を事務局まで

## 9. 改正省エネ法との関係整理 (来年4月施行予定)

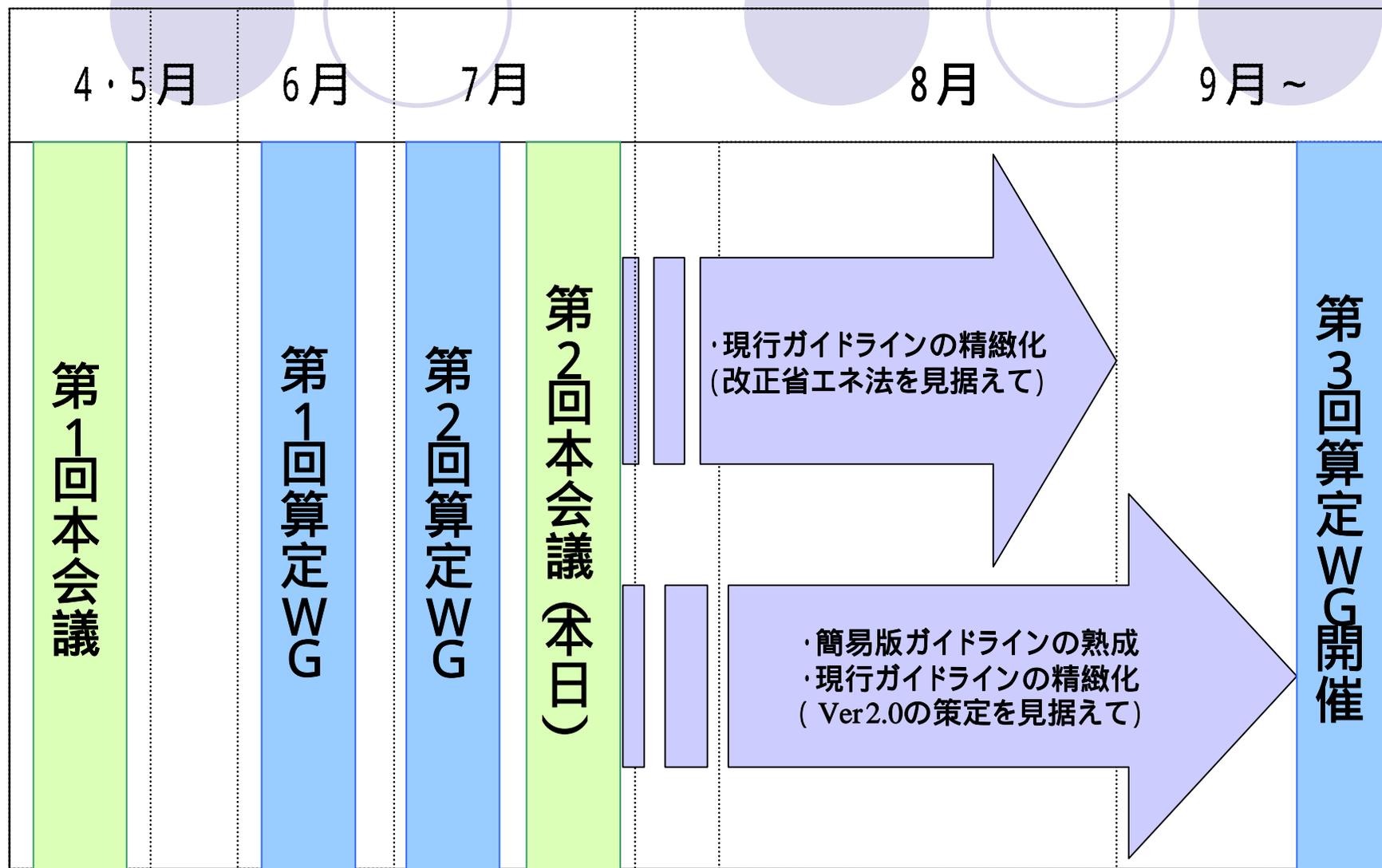


- ・共同ガイドラインは省エネ法のために作ったものではない
- ・算定法や按分法は省エネ法と一致するとは限らない

(役割)

- : 共同ガイドラインおよび簡易版ガイドラインの利用者オーソライズ、普及活動
- : 共同ガイドラインVer 1.0の精緻化、簡易版ガイドラインの作成
- : 改正省エネ法における算定方法の決定

## 10. ワーキンググループ 今後のスケジュール



改正省エネ法(来年4月施行予定)

## 第3回CO<sub>2</sub>排出量算定WG(今秋開催予定)

簡易版ガイドラインについて吟味、確定。

改正省エネ法の来年4月施行を睨み、現行ガイドラインを省エネ法に基づく報告・計画策定に耐えうる水準まで精緻化。

年度内の共同ガイドラインVer2.0発表に向けたスケジュール・課題を検討、決定。



ご静聴ありがとうございました。

End